



—北アフリカ地域ニュース—

チュニジア経済：チュニジア中央銀行による経済情勢調査 (6月29日付国営通信社 TAP)

1. 経済状況

- (1) 2011年4月、とりわけ工業生産、農業生産、貿易に関しては、経済活動の段階的な回復が見られた。これらの産業では、輸出拡大のテンポは順調に回復しており、6月20日の時点で貿易赤字額は約19%減少している。
- (2) 観光業収入は、外貨ベースで昨年比50%以上の落ち込みを見せるなど、大きく低下し、また、この産業の労働収入も減少したにもかかわらず、実質的な赤字は、2011年1月から5月までのGDPの約3%のレベルでほぼ一定している。

2. 資本

資本純輸入の減少は、外貨純資産の縮小を引き起こしている。6月27日現在、純資産残高は、9,893百万ディナール(約5,936億円:輸入110日分相当)に達している。なお、2010年末時点での残高は、輸入147日分相当であった。

3. 物価

物価動向について、インフレ率は継続して安定しており、2011年3月から5月までの3カ月のスパンで見ると、5月末の時点で3.1%(2010年同期4.8%)であった。これは、主として食料品価格上昇の軽減によるものである。

4. 通貨供給と金利

- (1) 通貨の面では、2011年1月から5月までの5カ月間における通貨供給量は3.7%上昇した(2010年同期3.9%上昇)。
- (2) 銀行は、そのセクターの重要性に鑑み、かつ、対企業支援努力の継続の一環として、必要な資金の提供を継続し、7.1%の増加を見た。
- (3) 不良債権や負債勘定は純増となっている。これは、企業が返済期限を遵守するために困難な状況に遭遇していることを反映している。
- (4) 市中銀行の流動性資金が収縮しているため、中央銀行は、年初以来、3回にわたる支払準備金率の引き下げを実施した。これに加え、中央銀行は、金融市場への流動資金注入を目的とする介入を拡大した。その平均額は、2,424百万ディナール(約1,454億円)に上った。
- (5) 金利について、6月の平均利率は4.59%に達した(5月は4.51%)。
- (6) 中央銀行理事会は、上記の経済動向に鑑み、また、経済状況の好転を支えとともに、経済成長率によって示されている景気後退から回復を図ろうとしている企業に対して必要な資金を供給するために、中央銀行直接金利を0.5%引き下げ、現状の4.5%を4.0%とすることを決定した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799